



道西日本海(奥尻島以南) スケトウダラ資源調査結果

道総研

2025年10月29日

北海道立総合研究機構 函館水産試験場 (0138-83-2893)

○2025年10月16日～25日に、試験調査船金星丸を用いてスケトウダラを対象にした計量魚探調査、トロール調査、CTDによる環境調査を実施したので、結果をお知らせします（図1）。調査結果は下記の函館水試ホームページからもご覧になれます。

<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>

- スケトウダラ魚群は、奥尻海峡を中心に沖合まで広範囲に分布した。
- 檜山以南(奥尻～松前沖)における魚探反応量は、前年の1.1倍であった。
- 魚体は尾叉長40～45cm台が主体で、30cm前後の未成魚も漁獲された
- 漁場周辺の水温は、スケトウダラが分布する水深300m以深はほぼ平年並であったが、水深200m以浅では前年より低く、平年を2～10℃下回っていた。

● スケトウダラ魚群の水平分布と鉛直分布

- ・ 水平分布（図2）：スケトウダラは奥尻海峡周辺に多く分布していた他、沖合にかけて広く分布していた。スケトウダラ漁場が形成される沿岸域では、乙部～久遠沖にまとまった分布が見られた。
- ・ 鉛直分布（図3）：スケトウダラ魚群は、主に水深300～500mに分布が見られた。

● 計量魚探によるスケトウダラ魚群の魚探反応量

計量魚探調査から推定されたスケトウダラ魚群の魚探反応量は、檜山以南（奥尻～松前沖）では前年比約1.1倍となった（図4）。海域別に見ると、例年魚群のみられる奥尻海峡周辺では前年比1.1倍、奥尻海脚では前年比1.3倍、松前小島周辺は前年比1.7倍であった。（図2）。

● トロール調査で漁獲したスケトウダラの大きさ

相沼沖、奥尻海脚でトロール調査を実施した。相沼沖では尾叉長40～45cm台が主体、奥尻海脚では40～45cm台に加えて34cm台にもピークが見られた（図5左側）。また、相沼沖および奥尻海脚では30cm未満の未成魚や、10cm台の1歳魚もわずかに採集された。奥尻海峡でのトロールは機材の不調により欠測となった。

● 水温環境

スケトウダラ漁場周辺の乙部沖、江差沖、上ノ国南沖で水温の観測を実施した（図6）。各調査点ともスケトウダラが分布する300m層の水温は平年並～やや低い程度であったが、海面～水深200mの水温は前年を下回り、平年を1～10℃下回っていた。また、乙部沖の海面～水深150mでは、1988年以降の38年間（1990年は欠測）で最も低い水温であった。なお、[10月の定期海洋観測](#)では対馬暖流の流量は平年並であったものの、岸沿いの北上流が観測されなかった。

※本調査は水産資源調査・評価推進委託事業により実施した

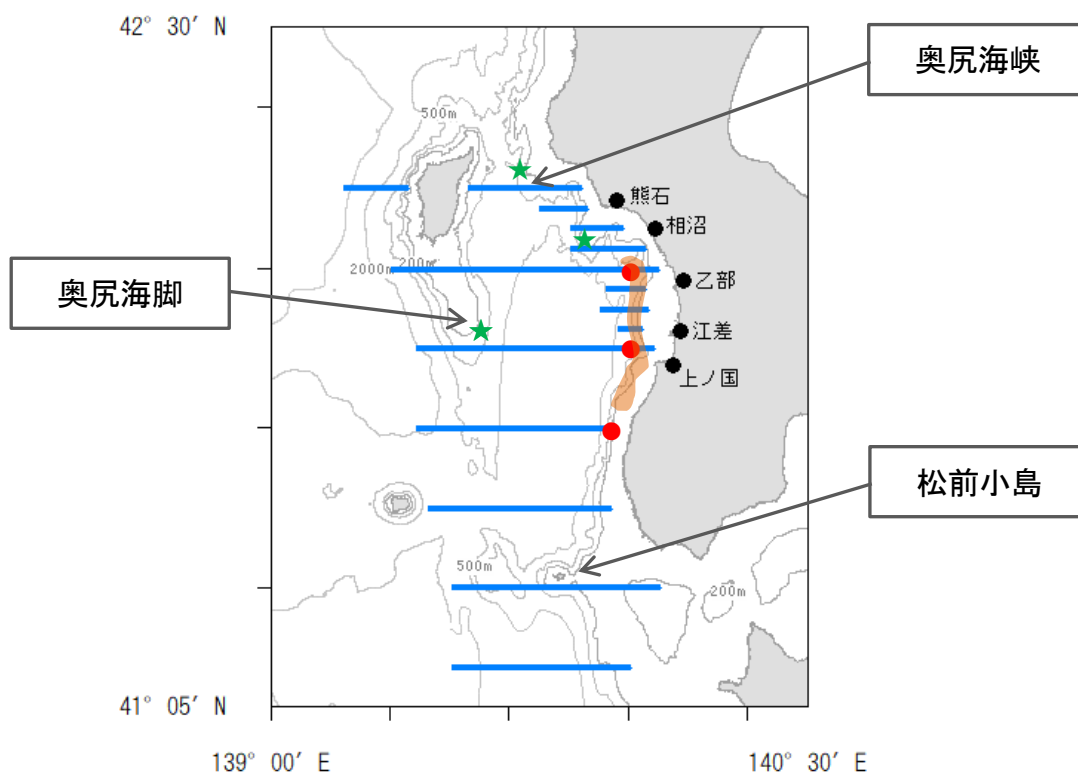


図1 計量魚探の調査ライン (—)

○ : スケトウダラ漁場域

★ : トロール調査点(上から, 奥尻海峡, 相沼沖, 奥尻海脚)

● : 海洋観測点(上から, 乙部沖, 江差沖, 上ノ国南沖)

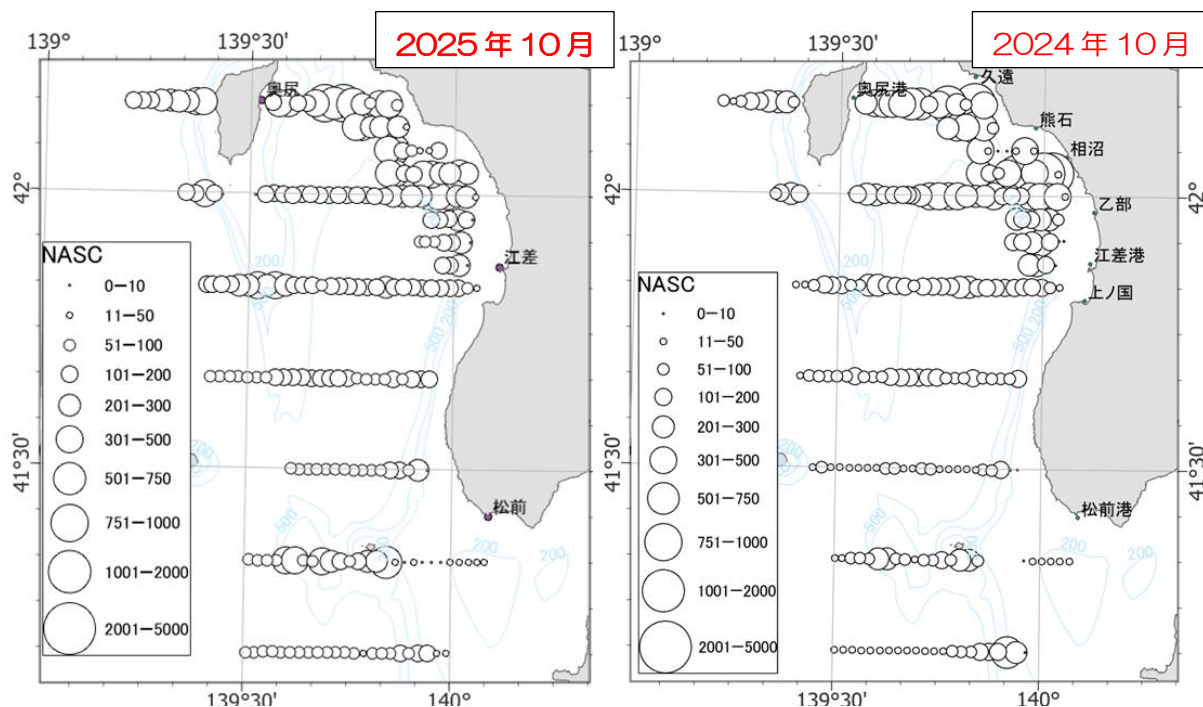


図2 スケトウダラ魚探反応量の水平分布 (左: 2025 年 10 月, 右: 2024 年 10 月)

※魚探反応量 (NASC) : 1 マイル平方面積あたりの魚探反応の強さを表す。

○の大きさが魚群反応量の強さを示す。

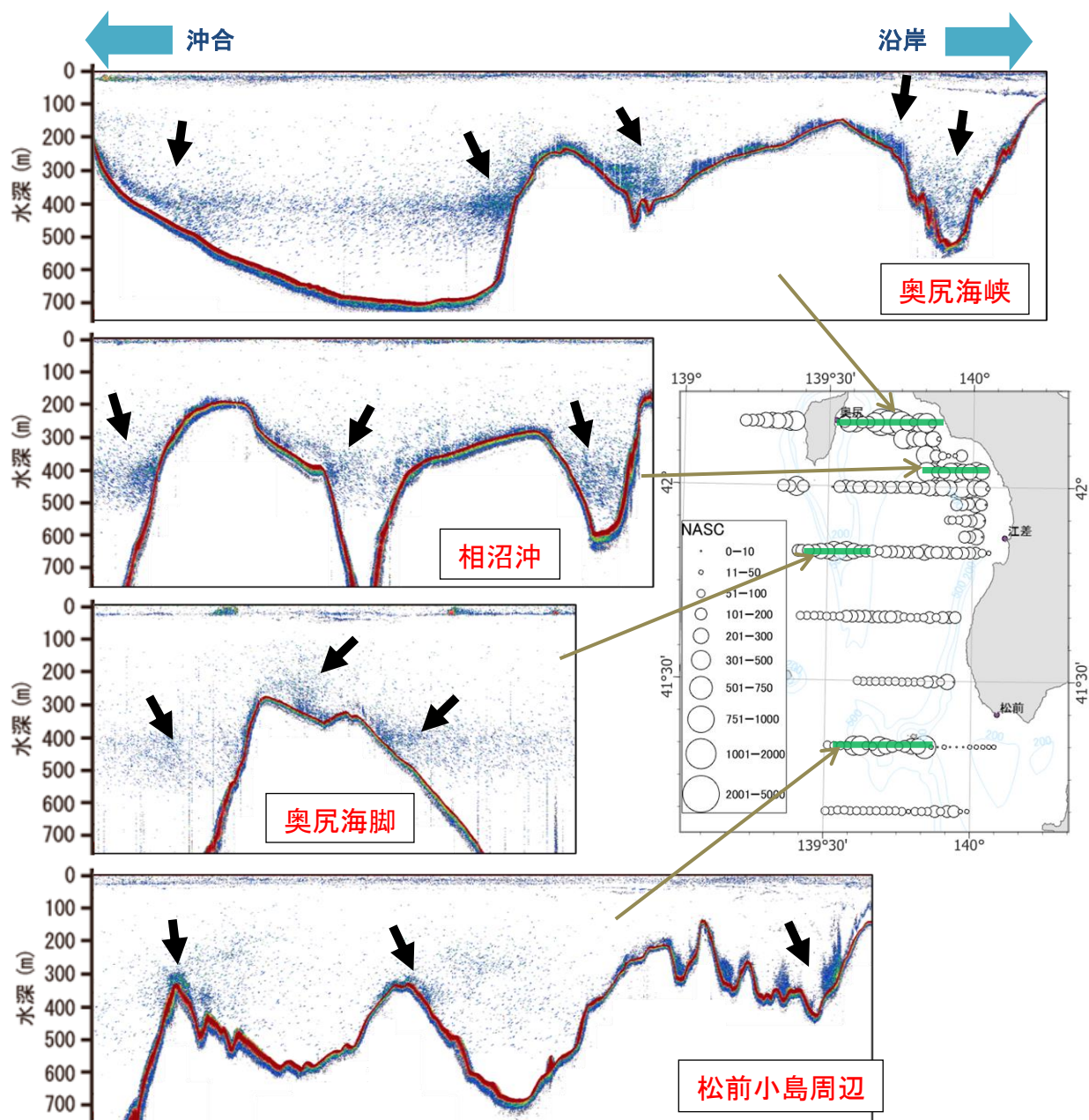


図3 各調査ラインにおける魚群の鉛直分布(夜間に調査を実施)(2025年10月)
 ※矢印はスケトウダラと考えられる反応、水深100m以浅はイワシ類とみられる反応

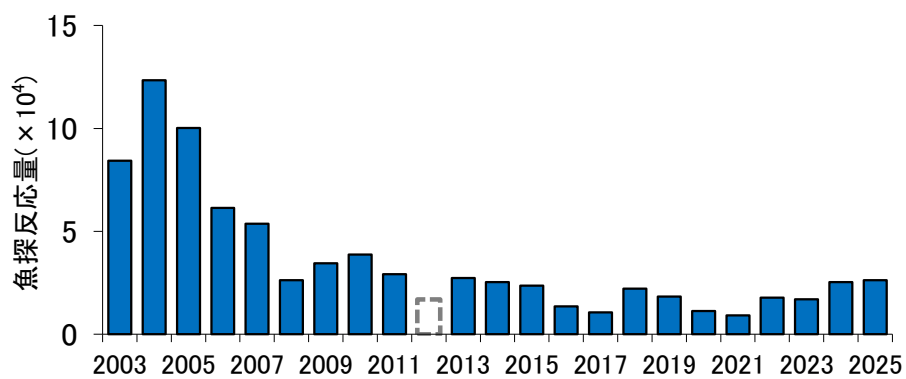


図4 計量魚探調査によるスケトウダラ魚探反応量の推移
 ※2012年は荒天による欠測等により過小評価されているため参考値

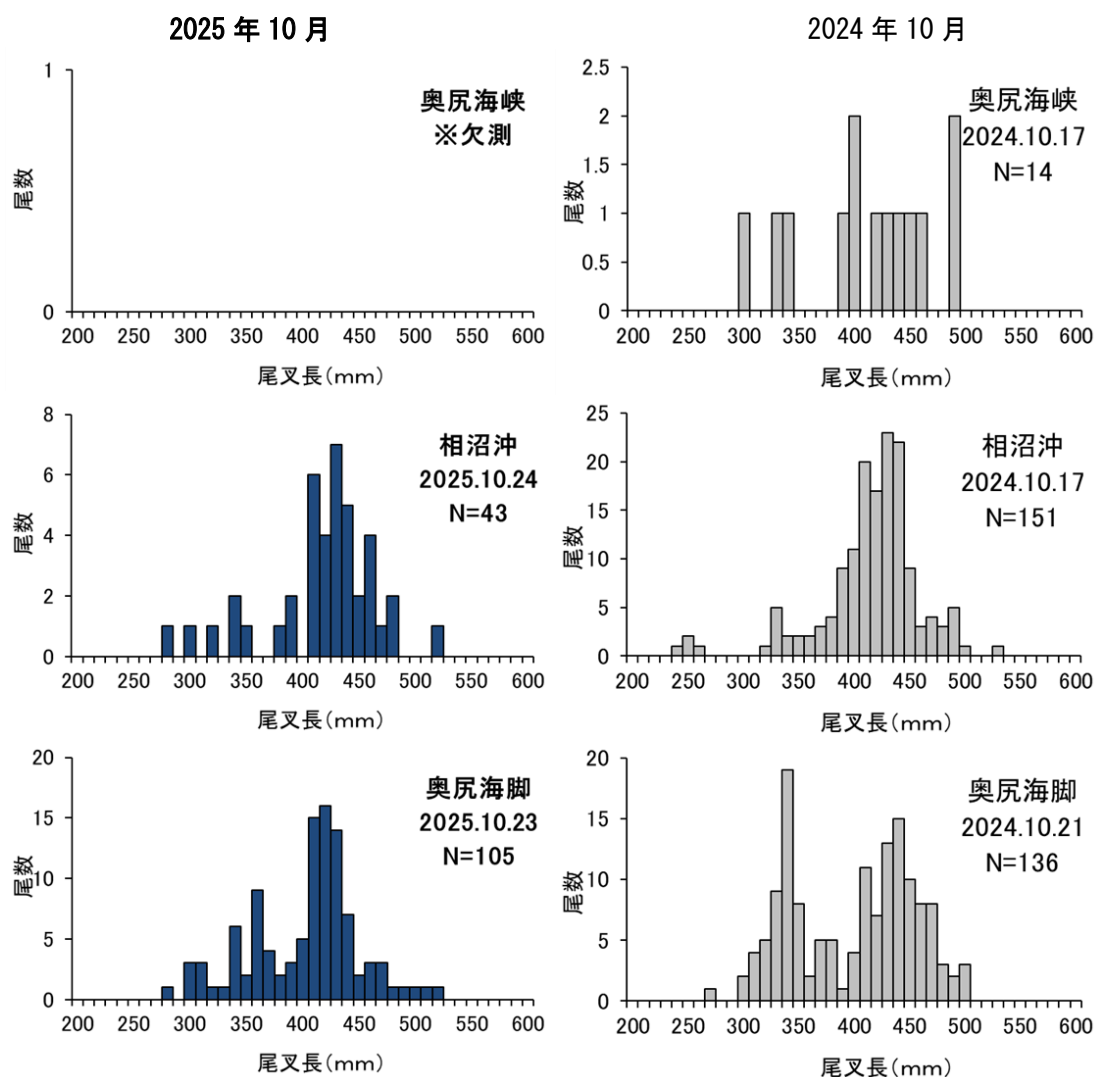


図5 着底トロールで漁獲したスケトウダラの尾叉長組成（左：2025年，右：2024年）

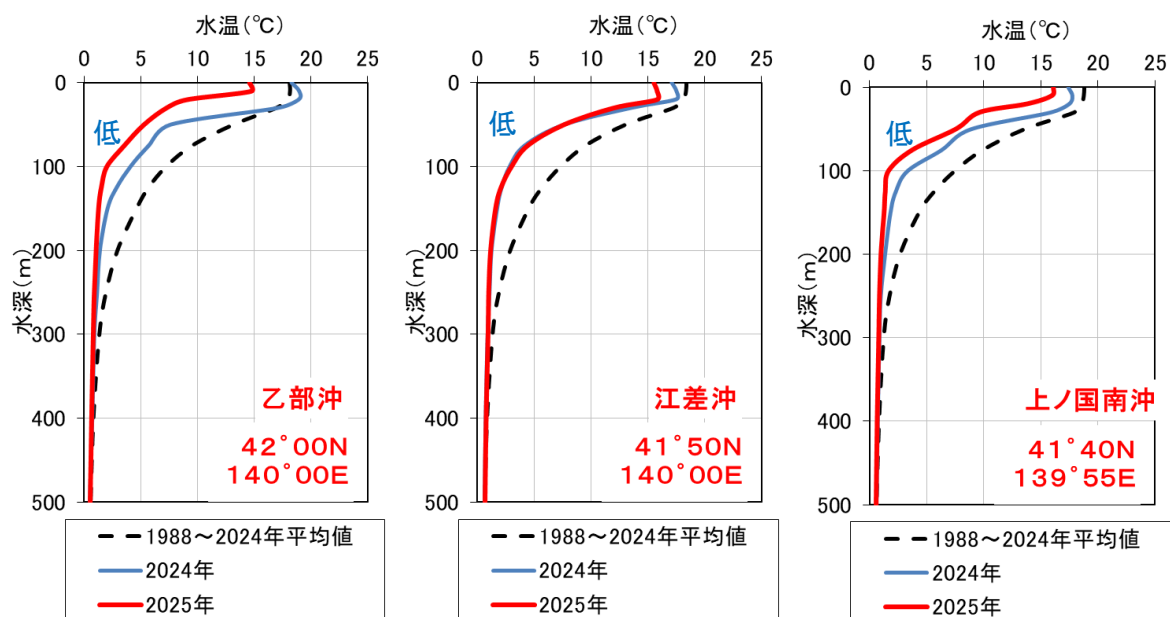


図6 スケトウダラ漁場周辺（図1）の鉛直水温分布（10月中旬）